



# Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2018年7月 vol.2

Vol.2は図らずも、マンガ、雑誌、伝記、ホラー、史実に基づくベストセラー、一般教養、介護系、と種々多様な本をご紹介します。

いつも見かけるスタッフの、違う一面がチラリと見えるような…(^^)

気になる本はありますか？ 次の雨の休日は「ゆっくり読書」、なんていかがでしょう。

## THE BIG ISSUE JAPAN / 有限会社ビッグイシュー日本

### 介護支援センター 長瀬 / 管理者 徳廣 波江



『ビッグイシュー』は雑誌ですが、本屋さんでは買えません。梅田、淀屋橋、京橋の駅周辺など、街角で『ビッグイシュー』を売っている人から直接買います。ビッグイシューは、ホームレスの人々に仕事を提供する事業として、1991年にイギリスロンドンではじまりました。映画『ボブという名の猫』や、原作の『ボブという名のストリート・キャット』『ボブがくれた世界』でご存知の方も？



ビッグイシューは、『映画、音楽、芸術、政治、食、時代…』など様々な分野の社会性のあるテーマを取り上げています。私は中でも連載の「滝田明日香のケニア便り」と「ママアンちゃん」(4コマ漫画)が好きです。特に「ママアンちゃん」の短い文章は哲学的で繰り返し考える時間をもらえます。皆さんも街角で『ビッグイシュー』を持った人に出会ったときは、一度話しかけてみられては…と思います。

・次回⇒ デイサービス 長瀬 / 柔道整復師 竹内 伸吾

## あおいけあ流 介護の世界 / 南日本ヘルスリサーチラボ

### 介護支援センター ながよし / ケアマネジャー 落合 誠一



じいちゃんばあちゃんが輝いている！ 職員がほとんど辞めない！ 施設では職員の結婚式も！ 最後は家族のように、お看取りまで…



お年寄り、よくこのように言われます。「人の世話になってまで、生きたくない」。

この本には、お年寄りが、①誰かのお世話になるのではなく、②できる事は自分でして、③誰かの役に立つ仕事をする。そのような姿が描かれています。そして、そのような生き方を可能にする、施設やスタッフのあり方についても。

簡単で、分かりやすく、短時間で読めます。皆様、いかがですか。

・次回⇒ ヘルパーステーションながよし / 管理者 熊野 佳子

## 一生使える「電話のマナー」 / 尾形 圭子

### 老健 栄養課 / 栄養士 中野 奈都美



筆者は500社以上の企業や店舗、病院、官公庁などで、電話対応・クレーム対応をはじめとしたビジネスマナー全般の研修や、リーダー育成など専門性の高いコンサルティングを行っている方で、現場感覚を大切にしながら実践的な研修は、各方面から高い評価を得ています。



この本は3つのパートに分けて書かれています。内容は①ビジネス電話のルールとマナー ②ワンランク上の電話トーク術 ③クレーム電話の受け方・さばき方 です。電話対応の基本から、ちょっとした気遣いのポイントなどが電話の会話の様々なパターンを想定し、会話の流れの順で分かりやすく紹介されています。

日常の電話対応でふと疑問に感じた点の解決になり、このように伝えると丁寧でスムーズな伝え方になるなどと勉強になった一冊でした。

・次回⇒ 特養 栄養課 / 管理栄養士 石賀 裕子

## 聖☆おにいさん / 中村 光

### 本部 / 事務 日下 和歌



9年前、中学時代からの友人数名が集まった際、漫画『聖☆おにいさん』があまりにも面白いというので、その場に持ってこられた1冊を回し読みしてみんなで大笑いし、挙句の果てにそのまま全員で本屋に行き、それぞれが当時発売されていた1~3巻までをまとめて買ったという思い出がある作品です。



目覚めた人・ブッタと神の子・イエスが、世紀末を無事に乗り越え、休暇のため下界へやってきて、東京・立川で2人暮らしをしているという設定で始まります。仏教やキリスト教について相当の知識がないと描けないだろうと思われる内容の深さで、決してそれぞれの宗教を愚弄しているのではなく、絶妙なネタとして仕上げられています。読み手も仏教やキリスト教に精通していなくても楽しめ、知っていれば更に面白味が増す作品です。

現在コミックは1~14巻まで発売されていて、月刊モーニングツーで連載が続いていますし、アニメ化も既にされていて、仏教徒やキリスト教徒の海外の方々にも多く容認されている秀逸な「笑い」であると思います。疲れた時に大笑いして癒されています。

・次回⇒ 本部 / 課長 青木 秀敏

## ココ・シャネルの言葉 / 山口路子

デイサービスきずり / 介護士 篠崎 和子



私にとっては衝撃的な内容でした。言うまでもなく、この時代の社会は男性社会、特にファッション業界において、女性は縫い子（下働き・裏方の作業のみ）で、デザインをするなんて考えられない時代でした。その中で、自分を貫き通し、死してもなお、一大ブランドに君臨するココ・シャネルの「働く女性の先駆者」としての言葉を集めた一冊です。印象に残ったのは、莫大な財産を築き第二次世界大戦勃発で引退を余儀なくされ、15年後の71歳でカムバックされた時の言葉です。



記者からの嫌味を多分に含められた「今からではもう遅いのでは・・・」という質問に、「退屈よりも大失敗を選んだの」と粋な答え。そして、「私は自分で引いた道をまっすぐ進む。自分が勝手に選んだ道だからこそ、その道の奴隷になる」とてもキツイ表現ではありますが、私には深く考えさせられる言葉になりました。一度、この本を手にとってみませんか？

自分の人生を自分らしく生き抜けるヒントが見つかるかも・・・

・次回⇒ デイサービスきずり / 相談員 勝本 康江

## 永遠の0 / 百田尚樹

老健 入所介護 / 介護士 榎谷 晃一



2006年に出版され、250万部以上を売り上げているミリオンヒット作となっています。



主人公の青年は、あるきっかけで自分の本当の祖父が第二次世界大戦中に従軍した零戦のパイロットであり、神風特攻隊として戦死していた事を知ります。祖父の事を知るべく当時の祖父を知る第二次世界大戦生き残りである元軍人の人々を訪ね、当時の人々の心情や環境を知り、漠然としていた戦争というものについての考えを改めていきます。

現代の青年を主人公として戦争を体験した人々から話を聞く、という形で戦争というものはどういうものか、その時代を生きた人々がどういう思いだったのかという事が表現されており、自分たちのような戦争を知らない世代でも興味を持ち考えることができる作品だと思います。

・次回⇒ 老健 リハビリ / 科長 大谷 直寛

## レンタル・チルドレン / 山田悠介

老健 デイケア・ロング / 介護士 山田 舞衣



映画化にもなった「リアル鬼ごっこ」や「あそこの席」など数多く執筆されており、独特の世界観がある山田氏のホラー作品。非現実度や恐怖度の高い作品もありますが今回紹介する本は比較的読みやすい作品です。



「レンタル・チルドレン」は、愛する息子を亡くした夫婦が悲しみから立ち直れず、子供のレンタルと売買をしている会社から死んだ息子と瓜二つの子供を購入してしまいます。

再び幸せな日々を取り戻しつつあったが、子供は急速に老化し、顔が溶けていく・・・。息子と子供の関係性は？裏に潜む戦慄の真実とは何か！？ホラーが苦手でない方は是非一度手に取り、山田氏の世界へどうぞお入りください。

・次回⇒ 老健 デイケア・ショート / 生活相談員 山下陽平

## オアシス文庫 recommend



辻村深月さんの【ぼくのメジャースプーン】をご紹介します。芯のある凛とした振る舞いの幼馴染ふみちゃん。小4の「ぼく」は彼女を尊敬し、また友人であることを誇らしく思っている。

ある日、可愛がっていた学校のうさぎが何者かに殺され、第一発見者のふみちゃんはショックで心を閉ざしてしまふ。やがて犯人は逮捕された。そして、一週間後、学校に謝りに来るらしい。「反省なんてコレっぽっちもしていないくせに。」

生徒代表として犯人と会うことになった「ぼく」。実は、「ぼく」には、特別な能力があるらしい。【犯人に対して、僕だけにできることがある。チャンスは一度だけ。これは僕の闘いだ。】

重い事件からの始まりですが、10歳の「ぼく」と一緒に迎える物語はわかりやすく、読後感はとても良い、心に残る作品です。犯人と対峙するまで数日間、指南役の大学教授：秋山先生と「ぼく」はたくさん、たくさん話をします。罪と罰について。罰を与える意味と意義について。言葉の持つ力について。赦すことについて。愛について。是非、「ぼく」の決断を見届けてください。

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出しできます▶



## 編集後記

「夏、読書」というと夏休みの宿題の課題図書を思い出します。当時は読み通すことが苦痛な面白くない本、と敬遠していましたが、多くの人に感動を与えた本は私の心にも生きる知恵やヒントを残してくれました。

私にとって“忍耐へのご褒美第1位”は、ヘルマン・ヘッセの「車輪の下」でしょうか。薦められた本が苦手なジャンルであっても、

「一生の良い出会い」となることもあります。Oasis meets Books がそのきっかけの一つとなれば嬉しいのですが。（豊永）

オアシス  
教育委員会